

起業家教育の授業で考案したエコ商品を発表する児童たち
(京都市山科区・大宅小)



NPO法人アントレプレナーシップ
開発センター(京都市中京区)

端切れを再利用した箸
包みに、牛乳パックで作
った多機能の小物入れ
。大宅小(京都市山科
区)の6年生が仮想企業
で企画したエコ商品を次
々に発表した。販売も体
験した児童らは「売れる
モノを考えるのは難し
い」と報告。教諭は「商
品の裏側にある開発者の
思いに目を向けてほし
い」と話した。
アントレプレナーシッ

プ開発センターは、小学
生から大学生までの若者
が起業を学ぶプログラム
や教材を開発し、大宅小
のように地域で実践して
いる。アントレプレナー
シップ(起業家精神)を
持つ人材育成が目的だ。
活動のきっかけは、先
進国で最低水準とされる
日本の開業率を引き上げ
るといふ問題意識だっ
た。開業が盛んな米国で
は大学時代に起業した

り、卒業後にベンチャー
企業に就職したりするの
は珍しくなく、ベンチャ
ーが産業の新陳代謝を促
す原動力になっている。
原田紀久子理事長は「日
本でもベンチャーの社会
的評価を高め、起業が職
業選択の一つになるため
には起業家教育の充実が
必要だ」と訴える。
最近では世界を舞台に活
躍できるグローバルリー
ダーを増やすため、高校
生がビジネスプランを競
う国際大会「グローバル
・エンタプライズ・チャ
レンジ(GECC)」の共
催に力を入れる。大会当
日に発表される課題につ
いて、4〜10人で解決プ
ランを12時間で練り上げ
た上、英語で提案する。

起業家教育の充実へ

全国から参加が増えてい
るという。

「行動力に優れた起業
家は、仕事の少ない地方
でも自ら事業を創出し、
地域経済の活性化に貢献
する」と原田理事長。地
域振興の担い手でありな
がら国際的な幅広い視点
も持ち合わせ、さまざま
な問題に挑む人材の発掘
と育成に奔走している。
(堀内陽平)

NPO法人アントレプレ
ナーシップ開発センタ
ー 原田紀久子理事長が
2003年に設立した。
会員や運営スタッフを随
時募集している。GEC
2016の国内予選の応募
締め切りは22日。問い
合わせは同センター ☎0
75(466)8907。